

## 令和7年度 徳島県立徳島北高等学校 学校評価総括評価表

### 1 徳島北高等学校のスクール・ミッション

英語教育をリードする学校として、ICTを活用し、コミュニケーション力を伸ばす授業や外国の人々と交流する「English Day」、「語学研修」などの体験活動を通して、国際社会に貢献する「グローバル人材」に必要な力を育成します。

### 2 スクール・ポリシー

- (1) 自ら課題を見だし、主体的に学びに向かう力を育成します。
- (2) 知識・技能を活用し、他者と協働して課題を解決する力を育成します。
- (3) 人権を尊重する豊かな心と異文化理解の精神を育成します。
- (4) 確かな英語力とコミュニケーション能力を育成します。(普通科)  
豊かな英語力とコミュニケーション能力を育成します。(国際英語科)
- (5) 国際的視野を持ち、持続可能な社会の形成に貢献する力を育成します。

### 3 「学校目標」(今年度の重点目標)

「自分で考え、自分の意見を持ち、自分の言葉で表現し、行動できる生徒の育成」

- (1) 自ら課題を見だし、主体的に学びに向かう生徒を育成する。
- (2) 知識・技能を活用し、課題解決等を通じて、新たな価値を創造しようとする生徒を育成する。
- (3) 個性を認め合い、多様な人とコミュニケーションを図りながら、国際的視野を持った社会の担い手となる生徒を育成する。
- (4) 指導と評価の一体化による授業改善をすすめ、個別最適・協働的な学びを推進する。

### 4 本年度の取組

\* 総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題	重点目標	評価指標 (と活動計画)	評価	次年度への課題と方策		
1 人権教育	①すべての教育活動を通じて実施 ②生徒・教職員が共に意識高揚	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	人権ホームルーム活動については、事前検討を十分に行える時期とそうでない時期がある。担任と人権委員が残した教材や実施記録を次年度に活用できるようにしているため、乗り切っているが前年度踏襲となりがちであり、新しいテーマや資料を扱えていない。他校の公開授業を見学したり、研究授業の際に担当教員の独自性を図ってもらったりして見識を広げていければと思う。 「人権委員会だより」には、邑久光明園訪問に参加した人権委員の率直な感想が掲載されており、生徒の学びや気づきがよく伝わる内容となっている。今後は教室掲示を行うとともに、人権ホームルーム活動等でも紹介するなど、より多くの生徒に共有されるよう広報の充実を図りたい。また、3年に1度実施している人権劇鑑賞会では、本格的な舞台を通して多くの生徒が深い感動を覚え、人権について考える貴重な機会となった。人権意識の高揚につながる有意義な取組であるため、今後も実施方法や内容を工夫しながら、継続的な実施について検討していきたい。	
		① 「人権意識が高まった」と答えた生徒の割合を85%以上にする。 ②-1 「人権委員会だより」を各学期1回以上発行し、読んでいる生徒の割合を70%以上にする。 ②-2 教職員の校外における人権講演会や研修会の参加を一人1回以上にする。	① 「人権意識が高まった」と答えた生徒は、94%で評価指標を達成した。 ②-1 「人権委員会だより」を読んでいると答えた生徒は、28%で評価指標を大幅に下回った。 ②-2 教職員の95%が校外における人権講演会や研修会に年1回以上参加した。	(評定)  B		(所見) 年間5回の人権ホームルーム活動では、多様なテーマについて生徒が主体的に考え、他人事ではなく自分自身の問題として捉えようとする姿が見られた。また、1・2年の人権委員が夏季休業中に国立療養所邑久光明園を訪問し、ハンセン病に関する歴史や差別の実態について学びを深めた。さらに、その学びを共有するため北高祭でパネル展示を行い、多くの生徒の関心を集めるなど、人権意識の啓発につながった。加えて、11月にはオペラ「さよなら、ドン・キホーテ！」を鑑賞し、マイノリティへの共感や困難な状況において勇気を持つことの大切さについて考える機会となった。教職員においても、夏季休業中の応神学園人権教育講演会に多数参加するなど、学校全体で人権教育の充実に努めることができた。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		① 人権ホームルーム活動や学校行事等で、自分の意見を発言し、他人の意見もしっかり聞くことができるなど、主体的に参加・体験させる。  ② 「人権委員会だより」を生徒主体で発行し、ホームルーム活動などを利用して、人権委員に記事を紹介させるなど生徒主体の活動を活発にする。また、Classiで全生徒に配信し生徒の読む機会を増やす。	① 人権ホームルーム活動では、各学年団で事前に内容を検討し、ペアやグループで話し合う機会を十分に設定したことで、生徒が主体的に課題に向き合い、活発な意見交換を行うことができた。 ② 人権ホームルーム活動や邑久光明園訪問後の人権委員の学びや思いをもとに、「人権委員会だより」を各学期ごとに発行することができた。一方で、その後の広報が十分とは言えず、内容を多くの生徒に共有するための工夫が課題として残った。			
2 学習指導	①学習習慣の確立 ②主体的・対話的で深い学びに向け、指導と評価の一体化による授業改善 ③生徒一人1台端末の活用を促進して、個別最適・協働的な学びの	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	初期指導がその後の高校生活に大きな影響を与えるのは明らかで、担任や教科担任を中心に具体的にアドバイスを行う。また年間を通して個人面談を継続し、担任が具体的なアドバイスを伝えるよう、面談で取り	
		①-1 平日の家庭学習（塾等での学習を含む）が1時間以上の生徒を90%以上にする。また、休日の家庭学習（塾等での学習を含む）が「(学年) +1」時間以上の生徒を80%以上にする。	①-1 9月の第2回調査では、学習時間が1時間以上は、1年生81%(89%)、2年生88%(90%)、2時間以上は、1年生50%(69%)、3時間以上は、2年生26%(59%)であった。学習時間のさらな	(評定)  B		(所見)

	<p>推進</p>	<p>①-2 「午後9時までに家庭学習を始める」習慣が身につけている生徒の割合を80%以上にする。 ①-3 自主学習状況を把握するために、Classiの学習記録を毎日入力する生徒の割合を85%以上とする。 ②-1 「学校の授業内容は、自分の学力を高めることに役立っている」と回答した生徒の割合を80%以上にする。 ②-2 「予習や復習など自主学習を毎日行っている」と回答した生徒の割合を70%以上にする。 ③ ICTを活用した教科指導を充実させるため、ICT関連の教職員研修を年間2回以上実施する。</p>	<p>る確保が課題である（括弧内は休日）。 ①-2 1年生72%、2年生69%で1、2年ともに目標を下回った。 ①-3 1年生80%、2年生42%で1、2年ともに目標を下回った。 ②-1 1年生95%、2年生90%で達成できている。 ②-2 1年生69%、2年生75%で2年生のみ達成できた。 ③ 情報セキュリティ研修とClassiの活用方法に関する研修、DXハイスクール実践校の視察報告研修を行った。</p>	<p>①-1、2 各担任が生徒のことを理解し、細やかな声掛けで、家庭学習の習慣づけを行うことができた。学習時間が不足している現状が見られ、生活の改善と自主的に取り組む学習の重要性の再認識を改めて徹底し、家庭学習時間を拡充させる必要がある。部活動後は早く帰宅するなど、時間を有効利用し、午後9時までに学習を開始させる必要がある。また、変化の激しい現在の大学入試に対応していくために、今後は教科担当もしっかりと連携し、組織的に指導に取り組んでいくことが必要である。 ①-3 継続した個別の指導が学年全体で必要である。継続的に声をかけ続け、生徒が自主的に記録できるように習慣化する必要がある。 ②-1、2 「予習」「復習」の必要性や「授業」とのつながりを生徒が実感して取り組めるよう、教科会を中心に指導方法のさらなる工夫や改善に取り組まなければならない。生徒が自分で学習を継続することができるようにホームルーム活動や授業の中で継続した指導が必要である。 ②-3 受講した教員が他の教員と情報を共有していくことが今後も重要となる。 ③ 設定した目標を達成することができた。昨年度までとは違い、DXハイスクール実践校である米子西高校や長崎東中・高等学校の視察ができたことは非常に有意義であった。</p>	<p>上げるべき項目を学年内で共有し、生徒に明示する。 学習習慣については、継続的に声をかけ続け、生徒が自主的に記録できるように習慣化する必要がある。 学習課題については、授業で扱うべき内容と授業外で取り組むべき学習課題を明確にし、家庭学習と授業の連動や授業を通しての学力の向上を生徒が実感できるように、さらなる授業研究や改善に努める。また、生徒が自己の成果を確認できるようなテストを実施する。 教員研修については、教科指導研修会などの情報収集と共有に努めるとともに、教科・科目内で受講者を割り振るなど、積極的な参加を促進する。 学習支援アプリClassiの機能で十分活用されていないものを今後どうしていくかということや、生成AIに関する研修や教育利用の推進をどのような形で実践していくかということを検討していく必要がある。</p>
	<p>活動計画</p>	<p>①-1・2 学習記録や生活実態調査を通して、現状の把握に努める。自主学習が不足している生徒には担任が面談を実施し、原因の解明と改善を図り、具体的なアドバイスを行う。また進路説明会等で、自主学習の現状とその重要性を保護者に認識してもらい、積極的なサポートを依頼する。 ①-3 自主学習が不足している生徒には、その原因を分析し自主学習時間が増加するようにサポートする。 ②-1 予習、授業、復習の学習スタイルを確立させ、課題や確認テストを実施し、授業内容の理解とその定着を図る。 ②-2 自己の学習活動の振り返りができる時間を設け自己内省することで、主体的な学びにつながるようにする。 ②-3 教科指導研修会の情報を周知し、事後は教科会や資料の閲覧を通して情報の共有を図る。 ③ 各教科ごとにClassiの運用方法について検討・検証するとともに、Classiの運用方法について研修を行い、生徒自身が効果的に学びの振り返りを行うことができる環境づくりに努めるとともに、生徒の学習状況に対する適切な支援を活かす。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1・2 生活記録や生活実態調査を実施した。個人面談の機会を重視し、生活記録を基に具体的な生活改善に関するアドバイスを担任が行った。また学年PTAでは現状の報告と改善を依頼し、家庭と学校が協力できる体制の構築に努めた。 ①-3 学年集会では放課後補習や夏季補習の意義や進路意識の高揚について指導した。上記補習の欠席が目立つ生徒には、個人面談を実施し、担任や学年主任を中心に個別指導を継続した。 ②-1 授業外で生徒が取り組むべき学習課題を明確にし、授業に集中できる環境を構築するよう各教科で改善を重ねた。 ②-2 定期考査、実力テスト、模試の受験後は訂正ノートの作成を促すなど、教科担任を中心に生徒の主体的な学びにつなげた。 ②-3 校外でWeb形式での教科指導研修会への参加経費について補助し、参加しやすい環境が整った。 ③ Classiの活用方法に関する研修を行った。学習記録を活用し、定期考査期間の学習取り組み状況をグラフで可視化し生徒の振り返りの補助として活用した教員もいた。多くの教員がClassiの校内グループを活用し、連絡やテスト問題の答案などの資料共有を行った。</p>		
<p>3 生徒指導</p>	<p>①挨拶の励行など基本的生活習慣の確立 ②生徒一人一人の実情に応じた支援とヘルメット着用等の安全教育を推進 ③社会の一員としての公共心の育成 ④いじめ等問題の未然防止、早期発見、早期解決 ⑤生徒の健康維持と疾病の予防</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 服装規程に反して、再点検指導となる生徒の割合を1%以内にする。 ①-2 遅刻者の数を昨年度より10%減少させる。 ①-3 教員による登校指導を月1回、生徒による「あいさつ運動」を学期に1回実施する。 ②-1 自転車交通事故件数を昨年度より減少させる。(昨年度28件) ②-2 自転車通学生のヘルメットの着用について督促する。 ③-1 学校安全の日の立哨指導や交通マナーアップキャンペーンを通して自転車の交通マナーの向上に</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①-1 再点検を実施したした生徒は0名(0%)であった。 ①-2 2学期末の状況で遅刻者数は91人(11%)で増加した。 ①-3 学校安全の日における登校指導は計画とおりに実施できた。 ②-1 自転車交通事故数は26件で、昨年より2件減少した。 ②-2 自転車のヘルメット着用について合格者説明会、始業式、終業式、学年集会などで着用を推進した。また、今年度は2回の交通安全教室を行いその中でヘルメット着用を呼びかけた。 ③-1 学年集会など機会あるごとに交通マナーについて注意喚起を促した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>①-1 服装頭髪について数値目標を達成することができた。 ①-2 遅刻の数が昨年より増加した。 ①-3 教員側からの挨拶に対応する生徒は多いが、元気よく自発的に挨拶ができる生徒は少ない。 ② 事故件数が昨年より若干減少した。大きな事故は発生していない。 ③ 交通マナーについての苦情等は少なかった。 ④ いじめのアンケートではほとんど</p>	<p>服装頭髪について大きく乱れている生徒はいないが、スカートを折り込んでいる生徒を時折見かける。注意すれば素直に直すか、その場しのぎの状態である。常日頃から清潔感ある身だしなみができるように連携協力を図る。また遅刻は雨天時に遅刻が増加する傾向がみられ、今後も粘り強く指導を継続していく必要がある。 安全教育の一つである自転車ヘルメット着用については、今後も機会あるごとに着用に向けての意識向上を図り、啓発を行う。 大きないじめ事案は発生していないが、生徒間の小さなトラブルはある。また、ほとんどの生徒がスマー</p>

<p>努める。特に並進通行、ながら運転の防止に努める。</p> <p>③-2 携帯電話の安全な使い方についての講演会を年1回以上実施する。</p> <p>④-1 「いじめは人間として許されない」と全ての生徒に認識させる。</p> <p>④-2 生徒対象「いじめアンケート」を年間3回以上実施し、不安を抱えている生徒には関係教員と連携し、個別面談を実施する。</p> <p>⑤-1 定期健康診断の受診率を100%にする。</p> <p>⑤-2 保健だよりを年間12回発行する。</p> <p>⑤-3 スクールカウンセラーによるカウンセリングの案内やカウンセラーだよりを年間12回発行するなどし、不登校傾向の生徒には早めの対応を行う。</p> <p>⑤-4 特別な支援を必要とする生徒には、適切に対応する。</p>	<p>③-2 スマートホン安全教室をdocomoよりzoomで行った。</p> <p>④-1 いじめアンケートを学期ごとに行い、「いじめは人間として許されない」と100%の生徒が認識している。</p> <p>④-2 「学校は好ましい人間関係の構築のため学校行事やホームルーム活動・授業に真剣に取り組んでいる」と答えた生徒の割合が96%だった。</p> <p>⑤-1 定期健康診断のうち、内科・結核・心電図・尿検査の4項目について、受診率が100%となった。</p> <p>⑤-2 保健だよりを年間14回発行した。</p> <p>⑤-3 カウンセリングの案内を8回、カウンセラーだよりを2回発行した。</p> <p>⑤-4 特別支援委員会を3回、職員研修を1回実施した。</p>	<p>の生徒が良好な人間関係のもと学校生活を送ることができているようである。しかしながら小さなトラブルは起こっており、いじめに発展することがないように早期に面談等を行って解決している。</p> <p>⑤ 様々な取組を行い、心身の健康に充実を図ることができた。</p>	<p>トホンを所持、使用しており、SNSによるトラブルや長時間の利用など課題が多い。生徒の小さな変化を見逃さないよう面談や見まもりなど継続的な指導が必要である。今後も学校医やスクールカウンセラー等の校内外の専門家と連携を図り、引き続き生徒の心身の健康管理を図る。</p>
<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>		
<p>①-1 常日頃から清潔感のある制服の着こなしができるように、学年団と連携・協力をしながら常時指導を徹底する。</p> <p>①-2 登校指導週間を実施するとともに、多遅刻生徒の指導を徹底する。</p> <p>①-3 生徒会や生活委員と協力しながら自発的な挨拶を喚起する。</p> <p>②-1 登校指導を月1回以上、警察署やPTAとの合同指導を年3回実施する。</p> <p>②-2 交通事故の状況について、職員・生徒・保護者の共通理解が図れるよう、情報を提供する。</p> <p>②-3 交通安全教室を実施する。</p> <p>③ 各関係機関と連携し、交通安全教室、スマホ安全教室を行い、自転車の交通マナー、情報社会におけるモラルを身につけさせる。</p> <p>④ 生徒の日常の言動と行動に注意を払い、不適切な場合はその都度指導する。また、生徒一人一人を尊重し、面談等を実施していじめ防止に取り組む。</p> <p>⑤-1 健康診断の実施と事後措置の徹底を図り、生徒の健康状態の把握と疾病の早期発見・受診推奨に努める。</p> <p>⑤-2 保健だよりや生徒保健・厚生委員会活動、健康に関するホームルーム活動や講演会、学校保健委員会等を通じて、生徒の健康課題に合った情報の提供や啓発を行う。</p> <p>⑤-3 悩みを持つ生徒や保護者の支援に努めるため、教育相談室やスクールカウンセラーを積極的に活用する。</p> <p>⑤-4 校内外の関係者と連携を図り、特別な支援を必要とする生徒への対応や支援を行う。</p>	<p>①-1 学期はじめの全体指導やクラス単位での点検を計画通り実施、また廊下などでの常時指導により、極端に服装頭髪が乱れた生徒はいなかった。</p> <p>①-2 雨天時に遅刻が増加している。</p> <p>①-3 生徒会や生活委員による挨拶運動を実施した。</p> <p>②-1 登校指導を警察やPTAの協力の下予定通り実施した。</p> <p>②-2・3 交通安全教室を2回実施した。2回目については交通マナーアップ委員による生徒主体の交通安全教室を実施した。</p> <p>③交通安全教室、スマホ安全教室を予定通り実施した。交通安全教室については予定より1回多く実施した。</p> <p>④学期ごとに面談週間を行い、生徒の悩みや生活を見直す機会を持つことができた。また、いじめアンケートなどによって、生徒間のトラブルを早期に発見、対応することができた。</p> <p>⑤-1 健康診断の事後指導として、個別に受診勧告や歯科保健指導を実施したことにより、生徒の健康状態の早期把握や受診推奨につながった。</p> <p>⑤-2 保健だよりを毎月発行した。また、保健・厚生委員活動では、熱中症や感染症予防の校内放送、健康課題に応じた保健ホームルーム活動を実施した。その内容は、学校保健委員会で報告する等、協議を行うとともに、ホームページ等での情報発信により、家庭との情報共有につながった。</p> <p>⑤-3 心理検査（Σ検査・1年生対象）結果の検討会を行うことで、生徒理解を深めることができた。また、悩みを持つ生徒や別室登校の生徒には、一人一人に応じてきめ細やかな対応を行った。</p> <p>⑤-4 多様な生徒に対して適切な支援が行えるよう、みなど高等学園の巡回相談員を講師に招き、職員研修を実施した。</p>		

4 進路指導	①キャリア教育を推進し、主体的な進路選択に向けた支援の充実 ②生徒の能力（可能性）、適性、希望等を踏まえた進路指導	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	限定的な進路研究ではなく、多方面に視野を広げることでできる機会を得られるよう、幅広い情報の提供と機会の確保を行う。 3年間を通して、記録を長期的かつ有効に活用し、主体的な進路選択へさらに発展させられるよう、指導体制を拡充する。 進路ホームルームや個人面談をさらに充実させ、学年・時期に応じて求められる内容や課題を精選し、達成目標を明確にする。 就職を希望する者に対し、2年生後半から具体的なサポートをさらに拡充させる。特に、面談の機会を十分に確保し、生徒・保護者への情報提供や意向を確認する機会を継続して設ける。
		①-1 1・2年次にオープンキャンパスや体験活動に参加した生徒、またWebや誌面での進路研究に各学期に1回以上取り組んだ生徒の割合を100%とする。 ①-2 ポートフォリオを利用し、校外外で取り組んだ活動の振り返りを行う生徒の割合を100%とする。  ②-1 2年次の9月の進路調査で、「進路目標が明確になっている」と回答した生徒の割合を100%とする。  ②-2 公務員セミナーや就職説明会などを通して自ら考える力を育て、就職を希望する生徒全員が進路を実現する。	①-1 全生徒（100%）が進路研究を行った。  ①-2 紙媒体を利用して、100%の生徒がポートフォリオを作成し、活動の記録、振り返りを行った。 ②-1 9月に実施した進路調査では、2年生の100%の生徒が進路目標が明確であると回答した。 ②-2 個別・全体指導を通じて情報提供や意見交換に努め、就職希望者はほとんど全員が就職内定した。	（評定）  B  （所見） ①-1 ホームルームや学年集会を通して進路研究の重要性を継続して指導した。Web形式より対面形式参加が増え、具体的なイメージを抱きやすくなったと考えられる。 ①-2 時期を設定して活動の振り返りを行うことができた。今後はその利用方法を具体化し、進路選択に直結させる指導が必要である。 ②-1 2年生2学期までに具体的な進路目標を設定することはできているが、安易な選択に陥っていないかなど、個人面談を継続して確認・指導する必要がある。 ②-2 職業観・勤労観を十分に醸成して、就職することに対するイメージを生徒が具体的に描けるよう、個人面談および三者面談を継続する必要がある。また情報収集とその共有を継続し、望ましい選択を支援する必要がある。	
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①-1 あらゆる機会を通して「自分の生き方」を考えさせるとともに、体験活動や進路研究に関する情報の提供に努め、1・2年生の間に必ず1回以上取り組ませる。 ①-2 ポートフォリオの意義とその利用方法を周知し、振り返りと記録を徹底させる。 ②-1 生徒や保護者に進路情報を提供し、各自の進路目標を設定させ、その実現に向けて主体的に学習する態度を育成する。また「若楠」や「進路ニュース」、「創立記念日の卒業生の講演会」などを活用し、進路意識の高揚を図る。 ②-2 望ましい職業観、勤労観の育成に向け、公務員セミナーや就職説明会を通して職業理解を進め、働く意義を学ばせる。	①-1 対面形式とWeb形式双方で実施されるイベントの周知を行い、積極的な参加を促した。多種多様な学部イベントへの参加が見受けられた。 ①-2 振り返りレポートの作成を通し、自己の取組を客観視できるよう促した。 ②-1 「若楠」「進路ニュース」「学年PTA資料」「学年集会スライド」では、入試や進路情報を掲載・周知し、進路意識の高揚に努めた。  ②-2 各種イベントを活用したり、生徒・保護者との情報の共有や面談を継続したりして、職業観や勤労観の醸成に努めた。		
5 特別活動	①部活動や生徒会活動の活発化を通じて、所属感・連帯感を強化 ②ホームルーム活動や学校行事を通じて、温かい人間関係を確立	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	生徒会活動は各行事の実施に際して、積極的な活動ができていた。しかし、主体的に活動ができているかと考えるとまだまだ向上することはできるところがある。また、全校生徒全てが自主的・積極的な活動ができていないかというところまでは至っていない。 「やあてはまる」の意見を含めた「できた」なので、より中身を向上させるための活動を増やしていきたい。具体的には生徒の意見が取り入れられているの割合は次年度に向けて生徒会と本年度中に話し合いを行い、会議にかけていく等で生徒の意見を取り入れていくことができる。決して生徒の意見がすべて通るわけではないがその過程を行い生徒会に発信させることはできない。様々な各行事ごとの生徒や教員へのアンケート・意見などを参考にしながら、次年度に向けて生徒や教員の意見が反映されるよう、計画の段階から配慮していきたい。
		①-1 学校評価アンケートにおいて「学校行事に自主的・積極的に取り組むことができた」と回答した生徒の割合を80%以上とする。 ①-2 学校評価アンケートにおいて「学校行事や生徒会行事には、生徒の意見が取り入れられている」と回答した生徒の割合を80%以上とする。 ②-1 学校評価アンケートにおいて「学校行事や部活動に友人や仲間と協力して取り組み、友好的な人間関係を築くことができた」と回答した生徒の割合を80%以上とする。 ②-2 学校評価アンケートにおいて「生徒は学校行事に自主的に取り組み、望ましい人間関係を構築できている」と回答した教員の割合を80%以上とする。	①-1 「学校行事に自主的・積極的に取り組むことができた」と回答した生徒が96%であり、目標を達成できた。 ①-2 「学校行事や生徒会行事には、生徒の意見が取り入れられている」が90%であり、目標を達成できた。 ②-1 「あなたは、学校行事や部活動に友人や仲間と協力して取り組み、友好的な人間関係を築くことができた」が96%であり、目標を達成できた。 ②-2 学校評価アンケートにおいて「生徒は学校行事に自主的に取り組み、望ましい人間関係を構築できている」が100%であり、目標を達成できた。	（評定）  B  （所見） 北高祭は、文化祭・体育祭ともにより効率よく実施できるように配慮した。その中でもなんとか生徒の思い出に残るものが実施できた。 生徒会の活動も北高祭や、予餞会などの実施に際して、自主的・積極的な活動ができた。しかし、「学校行事や生徒会行事には生徒の意見が取り入れられている」と回答した生徒は他の項目に比べて、割合が低いことからわかるように、生徒全員が、自主的・積極的な活動ができているとまでは至っていない。 全体的に目標数値80%を大きく超えているがやあてはまるの意見を見るとまだ中身の向上の余地はある。 各行事ごとの生徒や教員へのアンケートなどを参考にしながら、次年度に向けて生徒や教員の意見が反映されるよう、計画の段階から配慮していきたい。	
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①-1 生徒会役員が中心となり各行事計画を立て、全校生徒が自己の役割や責任を自覚し、生徒の意見ができるだけ計画に反映できるようにする。  ①-2 各行事の事前・事後にアンケートを実施し、生徒自身に自らの取組についての状況を把握させ、今後の活動に生かせるようにする。 ②-1 各ホームルームでの人間関係を深め、生徒会や部活動での学年の枠を超えた人間関係も構築し、	①-1 生徒会役員は、率先して各行事の実施に際して、自主的に活動することができた、全校生徒が自己の役割や責任を自覚し自主的に活動できるようにした。 ①-2 北高祭などの大きな行事に関しては、生徒や教員にアンケートを実施し、次年度に向けて、改善できるようにした。 ②-1 各ホームルームでの人間関係を深め、生徒会や部活動での学年の枠を超えた人間関係		

		豊かな心を育成する。 ②-2 ホームルーム担任や部活動顧問という立場で、生徒の人間関係をよく観察し適切な方向に導けるようになる。	も構築し、豊かな心を育成できるようにした。 ②-2 ホームルーム担任や部活動顧問という立場で、生徒の人間関係をよく観察し適切な方向に導けるようにした。		
6 国際理解教育	①豊かな国際感覚と英語コミュニケーション能力の育成 ②異文化理解、国際協調の精神の醸成	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	「海外語学研修」における課題は、円安や物価高の影響により費用が年々上昇していることである。1つ目の方策としては、先方と交渉を行い、できるだけ費用を押さえることが挙げられる。それでも費用が大幅に上昇するようであれば、エクスカージョンを減らすことも検討している。 「国内語学研修」についての課題としては、移動時間が長いということが挙げられるが、来年度についても引き続き実施したいと考えている。
		① 語学研修の機会を国際英語科、普通科の両方に提供する。 ②-1 講演会や海外との交流の機会を年間3回以上提供する。 ②-2 留学生を積極的に受け入れる。	①② 「海外語学研修(国際英語科1年生)」、「国内語学研修(普通科1・2年生希望者)」、「高校講座」、「English Day」、「徳島と世界をつなぐグローバルリーダー育成事業『オンライン交流プログラム』」の5つの事業を実施した。	(評定) A	
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①②-1 国際英語科対象を対象としたオーストラリアでの海外語学研修を実施する。 ①②-2 普通科を対象としたブリティッシュヒルズでの国内語学研修を実施する。  ②-1 全学年を対象に、外務省「高校講座」を実施する。  ②-2 海外からの留学生の受け入れや交流活動を通して、異文化に対する理解を深める。	① 「海外語学研修」は12月に、約2週間の日程でオーストラリアクイーンズランドのUnion Institute of Languageにおいて語学研修を実施し、国際英語科1年生40名全員が参加した。 「国内語学研修」は7月に2泊3日の日程で、福島のブリティッシュヒルズにおいて、語学研修を実施し、1・2年生普通科の希望者34名が参加した。 ②-1 「高校講座」では、外務省の講師派遣事業を利用し、国際法局経済紛争処理課所属の杉本健太郎氏に講演をしていただいた。 「English Day」については、国際英語科1年生が徳島の観光地について紹介、国際英語科2年生が、ALTとのディベート、国際英語科3年生は、謎解き要素を含んだコミュニケーション活動を行った。普通科1・2年生は、ALTへのインタビューと聞き取った情報を活用したゲームを実施した。 ②-1 「オンライン交流プログラム」については、10月からインドネシアの高校生と交流活動を月1回～2回行っており、2月まで計6回実施した。 ②-2 長期留学生として1名(タイ)の生徒を受け入れ、1年生国際英語科で学校生活を送っている。		
7 防災教育	①災害への対応能力・判断力・行動力の育成 ②自助・共助・公助の視点で、災害時に役立つ人材の育成	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	今年度は、各種の避難訓練に生徒一人一人が主体的に緊張感を持って取り組めるようにするために、あらかじめ日時を通知する避難訓練ではなく、日時を生徒に通知せず、無作為に訓練を行うことで、より実践的な避難訓練を実施した。しかし、訓練内容は以前とほぼ同様であったため、来年度は更に実践的な内容に改めたい。今年度、本校の被害想定が見直されたため、避難訓練だけでなく、学校防災計画の改訂が急務である。今年度中に課員と協議して、防災訓練や学校防災計画の改訂に取り組みたい。 また、教職員の防災意識の向上も必要である。本校は徳島市・北島町・藍住町の津波一時避難場所であり、徳島市の避難所に指定されている。今年度、部分的に避難所設置の
		① 地震・津波及び地震・火災対応避難訓練をそれぞれ年1回早期に実施するとともに、想定外津波避難訓練も1回実施する。  ② 校外外で行われる防災関係の行事を案内し、環境・防災委員以外の生徒の参加も募る。防災士講習会参加者については、2名以上の新規防災士登録者をを目指す。	① 計画どおり4月に地震・津波避難訓練を実施した。10月には地震・火災避難訓練を実施し、避難訓練だけでなく通報訓練や生徒を対象にした消火訓練を行った。 ② 校外での防災関係のボランティアを募集し、多くの生徒が参加した。また、今年度県から本校への防災士養成講座の募集人数が2名程度であったが、防災委員だけで希望者が超えてしまった。今年度の防災士新規合格者は4名であった。	(評定) B	
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①-1 避難場所や避難経路・方法などを充分周知する。  ①-2 環境・防災委員会により、文化祭時に展示による啓発活動を行い、全校生徒の防災意識の向上を	①-1 年度初めの地震・津波避難訓練と10月の地震・火災避難訓練により、避難場所や避難経路について周知徹底ができた。 ①-2 文化祭では8月の「防災クラブ講習会」で学んだ避難所体験について展示と防災食の		

		<p>図る。</p> <p>② 校内での防災関係講習会を行う予定であり、また校外講習会は案内が届きしだい案内及び募集する。防災士講習も同様に環境・防災委員を中心に募集し、文化祭時に活動報告を行うことで、その成果を全校生徒と共有する。</p>	<p>無料配布を行い、多数の来場者に防災クラブの生徒が避難所の説明を行うことで、防災意識の高揚につながった。</p> <p>② 今年度は8月に防災クラブの生徒で「防災クラブ研修会」を行い、避難所での内容について学び、災害時に役立つ段ボールベッドや段ボールトイレの設営について学んだ。また、今年度は徳島県立防災センターでの行事に多数参加し、防災について学びながら、ボランティア活動に積極的に取り組んだ。また、11月に行われた「防災クラブ交流会」に参加し、防災委員の活動内容を発表した。更に、地域との交流として、8月には3市町防災協議会を行い、徳島市・北島町・藍住町の防災担当者や各地域の自主防災会の代表者に来校していただき、災害時の対応を協議した。</p>	<p>営について学んだ。9月の文化祭では講習会で学んだ避難所体験について展示し、防災クラブの生徒が来場者にわかりやすく説明し、大変好評であった。今年度は、防災センターでの行事（7月の「子ども防災まつり」や10月の「防災フェスタ」）に参加し、防災について学びながら、ボランティア活動に積極的に取り組んだ。更に11月には「防災クラブ交流会」に防災委員会を代表して委員長と副委員長が参加し、今年度の防災委員会の活動内容をスライドを使って発表した。</p> <p>また、昨年に引き続き8月に行った「本校を津波一時避難場所にする自治体及び自主防災会等との打合せ及び研究協議会」では、各関係者と地震・津波が起こった際の対応について協議し、机上訓練を行って災害時の連携について具体的に協議した。</p>	<p>マニュアルや防災備品の一覧などを教職員に示し、共通理解を図ったが、周知徹底がまだ不十分である。来年度は、新しく改訂した学校防災計画の周知を徹底したい。</p> <p>さらに、本校での地域住民との避難訓練を試みたが、地域の自主防災会との調整がうまくいかず、実現しなかった。来年度は避難経路や避難場所の確認等を中心に、無理のない範囲で取り組みたい。</p> <p>一方、本年度文化祭の防災委員会展において実施した避難所体験・防災食無料配布は、大変好評であった。来年度も同様に、防災クラブの生徒を中心に、活動的な防災展示を実施したい。</p>
--	--	--	---	--	---

<p>○学校関係者の意見（3月12日〔木〕実施・学校運営協議会）</p> <p>① KPI（数値目標）について  （田原会長）KPIとして80%などの数値目標が設定されているが、実績が大きく乖離している項目もある。数値達成が目的化しないよう、目標値や取組内容の見直しも必要ではないか。  （向井校長）計画作成時に現状分析を踏まえ、現状と目標値を意識しながら設定するよう各担当に指示していく。</p> <p>② 教員の負担と働き方について  （永濱委員）多くの取組が進められているが、教員の負担増や残業増加が懸念される。教員への配慮やケアも重要である。  （向井校長）管理職として教職員へのねぎらいや声掛けを行い、働きがいを感じられる環境づくりに努める。</p> <p>③ ICT活用による業務効率化について  （吉田委員）働き方改善のための具体的取組について。  （向井校長）ペーパーレス会議の実施、共有フォルダによる教材共有、デジタル採点システムの導入、保護者連絡・欠席連絡をクラウドサービス（Classi）で実施→業務の効率化が進んでいる。</p> <p>④ 「人権委員会だより」の閲覧率について  （堤委員）閲覧率が約28%と低い点が課題。改善策はあるか。  （向井校長）配信するだけでなく、ホームルーム等でタブレットを開き閲覧する時間を設定するなど、閲覧機会を確保していきたい。</p> <p>⑤ 海外語学研修の費用について  （堤委員）国際英語科の海外研修の費用負担はどの程度か。経済的負担への対応は。  （向井校長）約45万円程度の費用が必要。国の補助金や同窓会支援により負担軽減を図っている。今後は研修先の変更（東南アジアなど）や支援制度の拡充も検討。</p> <p>⑥ 登校指導について  （堤委員）登校指導は教員の負担になっていないか。  （向井校長）生徒課を中心に月1回程度実施しており、全教員が毎日対応するものではない。</p> <p>⑦ 学校の取組の継続性について  （堤委員）優れた取組が個人の努力に依存しないよう、マニュアル化などにより継続できる仕組みづくりが必要。  （向井校長）教員が主体的に取り組めるよう、県外の先進校視察や研究会参加への支援などを行っている。</p> <p>⑧ 学校評価の仕組みそのものについて  （葛上委員）評価が「評価のための評価」にならないよう、スクールポリシーや生徒の成長とどのように結びつくかを整理する必要がある。  （向井校長）より実効性のある評価体系となるよう、今後検討を進める。普通科高校が増える中で差別化が必要。主体性を重視した教育を学校の特色としてさらに発展させていきたい。  ※ 令和7年度の学校評価総括表について承認いただき、ホームページ等で公表することについても了承していただいた。</p>
--